

| | 自 己 評 価 | | | | 達成状況 | 学校関係者評価 | 次年度の方向（改善計画等） |
|---|---|---|---|--|------|---|---|
| | 評価項目と具体的取組 | 評価指標 | 達成度判断基準 | 取組の状況 | | 学校関係者評価者による意見 | |
| ① 組織的な学校運営 | 〈組織的な学校運営〉 各分掌の機能化を図り、組織体として絶えずPDCAを意識した学校運営を心がける。 | 【成果指標】 毎月定期的に運営委員会が開催できる。 | 運営委員会の開催が A：年間10回以上 B：年間8回以上 C：年間6回以上 D：年間6回未満 | 2学期から行い、徐々に体制を整え、3月までに実施回数は8回。学校が組織的・機能的に運営されたと感じる教職員の割合は、7月65%、12月79%。 | B | ・学校運営に関する情報をもっと知りたい。 ・安全性に関しては、次年度の計画のように改善していただきたい。 | ・職員会議の内容重点化を図るために月1回の開催を定例化する。ただし、運営委員は固定化せず、協議内容により弾力的にし、実効性を重視する。 ・関係主任の意識向上と学校運営の円滑さを図るために報告・連絡・相談の統制を意識していく。 |
| | 〈学校安全〉 非常時に安全かつ速やかに避難できるように、定期的な防災訓練を実施し、対処の仕方を身につける。 | 【努力指標】 定期的かつ計画的に防災訓練を実施し、適切な対処・連絡体制がとれる。 | 適切な対処・連絡体制がとれたと感じた教職員が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満 | 火災に対する避難訓練6月に実施。小松警察署員を招聘して不審者対応実地訓練を12月実施。教職員アンケートでは1学期94%、2学期84%が適切な対処・連絡体制が取れたと答えている。 | C | ・火災に加えて地震の訓練及び知識を持つことが必要だと思います。 | ・総合的な学校安全計画の整備を早急に行う。 ・実地訓練の前に職員のマニュアル習得研修の開催が必要。その上で、外部機関との連携を図りより実際の場面を想定した訓練を実施する。 ・安全な学校生活の環境作りを目指して危機回避等の指導を充実させる。 |
| ② 確かな学力の育成 | 〈言語活動の充実〉 各教科で言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。 | 【成果指標】 学習活動において、4つの過程を意識することで、生徒が自分の考えを持ち、それを表現できるようにする。 | 自分の考えが表現できると感じている生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満 | 生徒アンケートでは1学期57%、2学期50%である。教師アンケートでも生徒に表現力がついたと感じている割合は1学期24%、2学期44%と同様に低い。授業の中で言語活動の充実を意識している教員は1学期87%、2学期71%。 | C | ・授業中、生徒の意見発表の評価が低いことが授業参観で感じる。自分の意見をうまく発表することによって、自信とやる気・学力向上につなげていけるよう導きをお願いします。 | ・授業に臨んでいる教員の意識と生徒が感じている自己の姿との間に隔たりがある。授業研究の機会を設定して、教師側も授業における改善点を洗い出す必要がある。 ・授業以外に思考・判断・表現する様々な場面を意識して利用していくしかけをする。 (当番の司会、1分間スピーチ、集会、委員会、行事、学活、総合、部活動など) |
| | 〈家庭学習〉 家庭学習の課題を学年ごとに継続的に与えることで、家庭学習の習慣を身につけさせる。 | 【成果指標】 毎日1時間以上の家庭学習に取り組むことができる。 | できている生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満 | 生徒アンケートでは1学期63%、2学期61%であるが、学年によりかなり大きな違いがある。我が子に対する保護者のアンケートでも63%→60%であり、生徒と同様な結果。 | B | ・先生方の熱心な指導にもかかわらず、生徒の学力が伸び悩んでいる。どのような対応が考えられるか示してほしい。 | ・アンケート結果ではTV視聴やゲームの時間の方がはるかに多くの時間を費やしている。 ・学年通信や懇談会などで、家庭と実態の情報を共有しながら自学する力の重要性を伝える。 ・必要感を抱かせるような課題、継続することで力が付いていくことを実感できるような課題を家庭学習の課題として提供する工夫をする。 |
| | 〈学力向上へのアプローチ〉 確かな学力の定着、家庭での学習習慣の改善、家庭・地域との連携、学級経営の充実などが図られるようにし、目指す生徒像の達成を目指す。 | 【努力指標】 学力向上プランで示した具体的な取組を進めていく。 | 具体的な取組を進めている教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満 | 教職員のアンケートでは1学期75%、2学期83%がプランを意識した実践をしている。11月に今年度の学力調査の結果の分析をもとに、「学力向上プラン」を修正した。 | C | | ・全教職員がプランの中の「目指す生徒像」を意識し、達成目標を確認する。 ・学校ぐるみで具体的な取組を進めていく体制 (例：プロジェクトチーム等)を作って取り組みを進める。 ・「いしかわ学びの指針12か条」を実践計画立案のよりどころとする。 ・生徒による授業評価が高くない。(分かりやすく楽しい授業が多い59%→53%) この原因を追究する方策を考える。 |
| 〈校内研修〉 研究授業や講師の招聘などを行い、学校研究を核として、全教職員が授業改善に取り組む。 | 【成果指標】 一人一回の研究授業(公開授業)を設定し、校内研修会の活性化を図り、教職員の参画意識の向上を図る。 | 校内研修会の有効性を評価している教職員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 10回実施した。7/9計画訪問8/6小中合同研修会(道徳：新宮弘識先生)、11/22板津中研究発表会、1/7小中合同研修会(学力向上について)、2/23「学習評価」研修会。どれも有意義であった。2学期に行った授業交流は十分に実施できなかった。教職員アンケートによると、校内研修会の有効性を感じていると答えた職員は1学期88%、2学期は74%。 | B | | ・年間の研修計画は年度初めに細部まで立案した上で動くようにする。 ・実践の中で教師自身が「学び合い」の学習スタイルを習得する校内研修会を実施する。 ・研究授業や模擬授業等を重ね、教師の授業力の向上を図る。専門の指導を受けられるサポート体制を活用する。 ・外部講師の招聘、外部の研修会への参加などの取組をさらに充実させ、教師の研鑽を高める機会を設定する。 | |
| ③ 豊かな心の育成 | 〈集団づくり〉 年間を通して学校行事や学級活動・班活動の中で目的を持って自分を表現できる集団づくりに取り組む。 | 【満足度指標】 学年に応じた自覚と責任を持ち集団の一員としての行動ができている。 | できたと感じている生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | 1学期は各学年(遠足、収穫祭、自主プラン、職場体験、修学旅行)や生徒会(海岸清掃)、2学期は学校行事(運動会、文化祭等)が挙げられる。できたと感じている生徒は1学期88%2学期84%。 | A | ・ルールを守ることなどに関して、先生の評価と保護者の評価に開きがあるように思われる。 | ・学活や班活動などの集団の中で状況判断しながら自分を表現できる場面を設定するように努める。 ・学校行事(運動会や文化祭等)を通して、自覚と責任を促し、集団の一員でよかったと言う充実感を味わえるように取り組みを進める。 |

| | | | | | | | |
|---|--|--|---|--|---|--|--|
| | <p>〈生徒理解〉 ひだまり週間やQ Uテストの実施, 特別に支援が必要な生徒への配慮など, 積極的な生徒理解と支援に努める。</p> | <p>【努力指標】 年2回面談とQ Uテストを実施・分析し, 職員会議での情報交換を通じて生徒との関係づくりや支援に努める。</p> | <p>先生と良好な関係が築け先生が自分を理解してくれていると感じている生徒の割合が A: 90% B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満</p> | <p>年間2回のひだまり週間, Q Uテストの実施。日頃の声かけも含め教師側は生徒理解に努めているが, 生徒アンケートでは「先生方が良いところを評価しようとしてくれた」と答えた生徒が, 1学期79%, 2学期75%だった。教師に対する保護者の評価は1学期76%, 2学期84%</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の育成に関して, 学校・家庭・地域双方で取り組まなければならないと思います。 道徳の授業に力を入れて下さっているのはとても評価できます。今後もよろしくをお願いします。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間2回のひだまり面談週間・Q Uテストは継続していく。 Q Uテストを面談週間の前に実施する。面談する時に担任がQ Uの結果をつかんでいるようにし, 生徒理解をより効果的に進めるため。 学級経営・日頃の生徒への声かけを通して, 生徒の状況や変化をつかみ, 生徒との良好な関係を築くようにする。 |
| | <p>〈道徳教育〉 道徳の時間の内容を工夫・充実し, 学校の教育活動全体を通して道徳的価値観・人としての生き方について自覚を深め, 道徳的実践力を育成する。</p> | <p>【成果指標】 計画的に実践を重ね, 積極的な授業研究に努めることで, 生徒の道徳的心情の高まりを促す。</p> | <p>道徳や学活の授業で, 人間関係作りや生き方などについて深く考えるようになった生徒の割合が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満</p> | <p>道徳教育全体計画の改編, 各学年道徳の時間確保に努めた。また, 道徳授業公開や道徳講演会も実施できた。道徳や学活の授業で, 人間関係作りや生き方などについて深く考えるようになったと感じる生徒が1, 2学期共に67%。</p> | B | | <ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間に資料を多面的に用いたり, 体験を生かす等の方法を多彩に試みる。 日常の指導との関連を図る。 内容を充実させることで, 人としての生き方の高まりを促し, 道徳的実践力に繋がるように努める。 道徳の講演会や研修会は来年も実施したい。 |
| | <p>〈読書教育〉 朝読書や集団読書など読書教育に積極的に取り組むことで, 豊かな心を育む。</p> | <p>【努力指標】 司書と連携しながら職員参加型の読書活動を展開し, 生徒の豊かな心を育む。</p> | <p>本を読むことは感動したり心が豊かになってよいことだと答えた生徒の割合が A: 80% B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満</p> | <p>生徒アンケートでは1学期74%2学期76%がよかったと答えている。以下は主な取り組み。 ・朝読書と全職員参加型集団読書「安中ブックラリー」 ・学校図書館司書による読書啓発活動 ・図書委員会活動の充実</p> | B | | <ul style="list-style-type: none"> 校長・教頭・事務主査・養護教諭・司書と安中の全職員が参加して放送によって読み聞かせる「安中ブックラリー」は, 読まれる本がバラエティに富み生徒も楽しみにしているのので来年度も継続する。 図書館司書・図書委員会の活動も来年も今年度と同様にしていく。 |
| ④ | <p>〈健康教育〉 保健行事や授業を通して, 生徒が自分の健康問題に気づき心身の健康に対する自己管理能力の向上に努める。</p> | <p>【成果指標】 生徒が自分の健康に関心を持ち, 朝食の摂取に努める。</p> | <p>生徒の朝食の摂取率が A: 97.5%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満</p> | <p>養護教諭が日々働きかけていたことに加え, 11月に学校保健委員会を持ち, 朝食の重要性を訴えることができた。生徒への事前アンケートでは朝食摂取率は92.9%。事後の保護者アンケート結果では91%。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> P T Aの早寝・早起き・朝ごはん運動を推進して欲しい。 心身の育成・達成することの喜び・チームワークの大切さを学んで欲しい。それに結果が伴えばなお良いと思います。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己の健康についての管理能力を高めるような試みを提案していく。 朝食摂取率の向上を旨すとともに各種検診で発見された疾病の受診率を上げることに努めていく。担任にも協力を依頼し, 生徒本人や保護者と連絡を密にとる。 |
| | <p>〈部活動の活性化〉 集団活動を通して, 心身の発達を促進し, 個性の伸長や社会性を高めるなどの, 人間育成をめざす。</p> | <p>【満足度指標】 所属する部活動は, 自分の心身の成長に役立っている。</p> | <p>役立っていると感じている生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満</p> | <p>アンケート調査から生徒の満足度は88%→85%, 保護者では88%→91%と高い。教職員もそのことを意識しながら取り組んでいる。しかし, なかなか大会結果に反映されてこない。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> 部活動数が少ないのもう少し増やせないのでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> 外部コーチの招聘や外部機関との連携を深め, 講習会の開催など, 競技の特性に合った一つ一つの動きを, より正確にする。 規律ある活動の中で個性の伸長や社会性を高め, 集団としての指導力を高める。 顧問会で共通認識を図るようにする。 |
| ⑤ | <p>〈P T A活動〉 保護者との良好な関係の構築を基盤に, 生徒の自主性を促し成長を共に支えていくP T A活動を推進する。</p> | <p>【成果指標】 朝のあいさつ運動の保護者の参加率を上げる。</p> | <p>保護者の参加率が A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満</p> | <p>95.8%の参加率がある。4カ所を各2名で担当しており, 日誌によると保護者は積極的に生徒に声をかけている様子がうかがえる。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> 親子で参加型の活動がもっと増えると良いと思います。 | <ul style="list-style-type: none"> P T A活動が多く, 学校や子ども達への支援が有り難い。会合や日誌などから, 保護者の声をひらい, 願いを生徒に伝えていく仕組みをつくる。 地区別懇談会や資源回収の方法については有効性を第一に, 十分協議を重ねたい。 |
| | <p>〈小中連携〉 校区の特色が生かせる小中連携の在り方を考え, 実践する。</p> | <p>【満足度指標】 小中の情報交換や取り組む諸活動が意義あるものであり, 満足できる。</p> | <p>小中連携の取組に満足している教職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 60%以上 D: 60%未満</p> | <p>アンケート調査から1学期は88%, 2学期は74%であった。3学期には, 小中合同で教職員の協議会をもち, 児童生徒の学力向上に向けて熱心に話し合い, その成果が期待できる。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新は月1回でもすごいと思います。学校情報の公開に積極的な姿勢は◎です。あまり無理をなさらないで下さい。 | <ul style="list-style-type: none"> 1中学校1小学校という地の利を生かし, 教員同士の授業交流や各分科会を計画的に行い, 児童生徒の確かな学力の向上に結びつける。 小中9カ年のスパンで子ども達を見ていくという意識を互いに持つ。行事等のすりあわせを行い, 校区としての利便性や効果も考慮していく 年度当初に管理職同士の情報交換会を持ちたい |
| | <p>〈信頼される学校づくり〉 積極的な情報公開に努め, 信頼される学校づくりを目指す。</p> | <p>【努力指標】 学校の様々な活動を広く公開するために, ホームページの更新を積極的に行う。</p> | <p>ホームページの更新頻度が A: 週に1回以上 B: 月に2回以上 C: 月に1回以上 D: 学期に1回程度</p> | <p>アンケート調査から, 学校は学校・学年行事や生徒会活動の様子を学年便りなどでよく知らせていると感じている保護者が1学期は83%, 2学期は92%である。しかし, H Pの更新は遅れがちであり, 月に2回以上更新できたときもあるができていないときもある。</p> | C | <ul style="list-style-type: none"> 課題はたくさんあると思う。もっと生徒たちの学校生活を伝えて欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 2学期に購入した新しいコンピュータにH Pを移譲させ, 次年度は基本ベース月1回の更新, 学校行事等のアップはその都度行い, 週1回以上の更新になるようにする。 役割分担について検討し, 特定教員だけに負担がかからないように改善していく。 学校情報の公開に向けて, 管理職も大いに関わっていく。 |